

最近 10 年間の活動状況

設立後の 10 年間は、設立当初の志と信条を基本として、ボランティア活動の基礎を着実に実践してきましたが、最近 10 年間は、その活動を一段と多様化し、地域とのつながりをより深く、確実に広めてきました。

○「車いす」の体験学習

・ 当会自主企画事業「ボランティア育成事業」

これは、日頃、なかなか外出の機会が少ない身体障がい者の方を、近郊の公園や名所に案内して楽しんでいただくと同時に、新人ボランティアさんに、身障者との触れ合い、車いすの操作等を学んでいただくという事業で、毎年実施され、今年 10 回目を迎えました。



車いすボランティア育成事業の問題

今年で 10 回目になる V 事業ですが、いつも苦労することがあります。

複数台の車いすによる交通機関の移動は電車にしても、バスにしても駅員との交渉です。利用者名簿を提出してもその都度、各人の障がい者手帳の掲示を求められ、改札の通過に時間を消費してしまいます。員数確認で通過をお願いしても規則を理由に拒絶されます。

各人は障がいを持っているため、どうしても行動が遅くなりますので手帳掲示にもモタツキがあり、全体として時間のロスを招いています。
(つづく)

また、各駅にあるエレベーターの不便さです。京王線では新宿駅から JR のホームまで行くのは至難の業です。一旦、一般道路に出て JR の改札を通過してエレベーターを利用しないとホームに行けません。

以前は、障がいのある人が外出する際の不便さを聞く機会がよくありましたが、近年、エレベーターの設置等が整備され、バスの昇降時の不便さが解消されています。しかしまだまだ現実の交通機関は障がい者に対しては不便であることを痛感しています。

(瀬野 克義)



- ・小中学校の「総合的学習」の一環として要請された学校に出向き、また、企業に於いては「社員教育」、コミセンでは「地域の福祉事業」として車いすの体験学習を指導してきました。

